

## ●病院の概要



本院は、国の一県一医科大学構想に基づき昭和48年に医学部が設置され、山形県の医療の中核病院として昭和51年に開院しました。《人間性豊かな信頼の医療》の基本理念のもと、①インフォームド・コンセントに基づいた患者中心の医療 ②地域に開かれた医療 ③最高水準の医療 ④厳しい倫理観をもった創造的な医療人の育成を基本方針とし、地域医療の向上を目指しています。病床数は604床で、第3次救急医療機関として指定を受け、東北地区の国立大学法人附属病院の中ではトップクラスの1日に5~6台の救急車を受け入れるなど、地域住民への医療サービスの提供を図っています。

高度先進医療としての承認は、これまで9件あり、世界最先端の医療の開拓にも力を入れています。また、高度先進医療に加えて覚醒状態での脳腫瘍手術、切断された7本の指の縫合手術など、全国レベルでもトップクラスの実績を持つ診療科も多数設置しています。平成14年度には、日本医療機能評価機構のVer.4を全国の大学病院で2番目に取得し、さらに、平成15年度にはISO9001も取得しました。なお、平成19年度には、現在の最高水準である日本医療機能評価機構のVer.5の認定を受けています。

現在では、山形県内における公的病院の50％を山形大学卒業の医師が占めるようになってきており、県内の多くの病院で活躍できる状況ができています。

平成17年度から、①患者中心の医療を提供 ②高度先進医療の提供 ③教育研修機能の充実による医療水準の向上 ④医療・療養・労働環境の改善 ⑤病院経営の健全化を整備計画の目標とし、6床室から4床室へ、HCU・臓器別疾患センターの設置等、病院の再整備に向けた工事が始まり、再整備の一つとして平成20年7月に新南病棟が開院しました。工事の完成は平成22年度の予定です。

また、平成20年度には、国の「グローバルCOEプログラム」に申請した「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」が採択されました。医学系でこの事業に申請があったのは、全国62大学72件で、採択されたのは13大学、14件でした。この採択は、日本有数の医学研究拠点が山形の地に形成されることを意味し、山形大学が実力ある大学として全国に認められたという確固たる証です。

## ●募集について

- 臨床研修
  - 平成22年度研修医募集定員：50名
  - 平成21年度研修医受入数：1年目：25名 2年目：23名
  - 処遇
    - 基本給：290,000円(臨床研修手当含む)(初年度)
    - 退職手当有
    - 年間概算支給見込額：3,600,000円(初年度)
    - 各種保険有
    - 宿舍貸与有
- 研修医の募集及び採用の方法
  - 募集方法：公募
  - 選考方法：面接・試問
  - マッチング利用の有無：有
  - 提出書類：研修医採用申請書

●病院見学について  
 随時受け付けておりますので、e-mailまたは電話でご希望の日時をご連絡ください。

## ●診療科ごとの入院患者・外来患者の数の

診療科名	年間入院患者数	平均在院日数	年間新外来患者数	1日平均外来患者数	年間外来診療日数	常勤医師数	指導医数
第一内科	1,337	17.7	2,446	116.0	243	30	3
第二内科	957	20.0	1,831	115.2	243	19	3
第三内科	357	39.5	985	104.6	243	27	3
小児科	317	35.5	957	41.1	243	19	3
精神科	145	30.4	770	75.1	243	12	3
皮膚科	250	21.0	1,668	54.7	243	12	2
放射線科	28	4.9	261	35.0	243	14	4
第一外科	975	17.8	706	53.2	243	17	3
第二外科	639	15.8	558	19.2	243	15	3
脳神経外科	292	36.3	1,074	29.4	243	10	3
整形外科	701	20.5	2,605	95.6	243	18	3
産科婦人科	676	18.3	859	69.0	243	17	3
眼科	1,045	7.9	2,607	109.5	243	18	3
耳鼻咽喉科	466	19.8	1,617	66.3	243	16	3
泌尿器科	494	16.4	782	36.8	243	12	3
麻酔科	13	4.0	236	7.7	243	14	3
歯科口腔外科	153	14.7	1,600	43.3	243	20	3
救急科			24	0.2	243	4	3

## ●学会認定施設の状況

- 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本胸外科学会・日本心臓血管外科学会・日本血管外科学会
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会専門医制度研修施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- 日本麻酔科学会麻酔科標榜施設麻酔科認定病院
- 日本病理学会研修認定施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 日本リハビリテーション医学会研修施設
- 日本口腔外科学会専門医制度指定研修機関
- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本血液学会認定血液研修施設
- 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本腎臓学会研修施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本老年医学会認定施設
- 日本神経学会専門医制度教育施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 呼吸器外科専門医認定機構基幹施設
- 日本呼吸器外科学会・日本胸外科学会
- 日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
- 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- (日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本血管外科学会)
- 日本小児外科学会専門医制度認定施設
- 日本リウマチ学会教育施設
- 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設
- 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医制度研修施設
- 日本核医学会専門医教育病院
- 日本東洋医学会研修施設
- 日本透析医学会専門医制度認定施設
- 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度研修施設
- 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- 日本臨床検査医学会認定病院
- 日本集中治療医学会専門医研修施設
- 日本臨床薬理学会認定医制度研修施設
- 日本IVR学会専門医修練施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設

## ●後期研修

- 処遇
  - 給与：11,245円/日
  - 退職手当有
  - 宿舍貸与有
  - 各種保険有
- 研修医の募集及び採用の方法
  - 応募資格：卒業後、2年間の初期臨床研修を修了した医師。もしくは、平成22年3月修了見込の医師。
  - 募集科目：第一内科、第二内科、第三内科、小児科、精神科、皮膚科、放射線科、第一外科、第二外科、脳神経外科、整形外科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、麻酔科、救急部
  - 募集人員、応募期間、試験日、選考方法に関するお問い合わせは、各診療科をお願いします。

## ●プログラムについて

### 臨床研修

### ●研修スケジュール(一例)(21年度)

山形大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムA (大学病院必修科・希望科6カ月＋協力病院6カ月研修コース)

A	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内 科						外 科			救急・麻酔		
2年次	小児	精神	産婦	地域医療	希望科(大学)	希望科(協力病院)						

特色：2年目の前半は大学病院で必修科(小児、精神、産婦、地域医療)を各々1カ月、希望科を2カ月研修し、後半は協力病院で研修を行う。(前半と後半の入替も可能)

山形大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムB (大学病院・協力病院自由選択研修コース)

B	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科(大学)			内科(大学・協力病院)			外科(大学・協力病院)			救急・麻酔(大学・協力病院)		
2年次	希望科			小児	精神	産婦	地域医療	希望科	希望科			

特色：1年目、2年目の基本研修科、必修科、希望科を大学病院又は協力病院で研修する。(3カ月毎の入替可能)

平成22年度開始プログラムについては、変更予定あり(一般的なプログラムの変更・新設の他に、外科、救急・麻酔、小児科、産科婦人科に特化した重点コースを新設予定としている)

### 後期研修

山形大学医学部附属病院では、各診療科の協力のもとに、病院をあげて後期研修の先生方を積極的に受け入れ、皆さんのキャリアパス形成支援を行っています。山形大学が提供する後期研修は、教授を中心とした医局が、緻密に組まれたプログラムに沿って将来の専門医取得に向けた教育を責任を持って行いますので、基礎から高度先進医療まで体系的に学ぶことができます。また、我が国の医学部で最初に導入した大学院社会人選抜枠を有効に活用して、専門医のための研修と同時に、将来の医学博士をめざした臨床研究を行い、これからの日本の指導的医師のあるべき姿として国が求めている「リサーチマインドを持った専門医」へのキャリアパスの提供も可能としています。

○幅広い研修を可能とする山形大学の「循環型医師研修プログラム」  
 医学が対象とする分野は幅広く、大学病院で研修する最先端医療・高度医療と、地域病院での標準的医療の研修は、まさに車の両輪です。山形大学の後期研修においては、大学病院と地域病院での研修を循環しながら行う教育体制をとっています。山形大学と関連病院の間には、日本の医学教育界でも注目されている「山形大学蔵王協議会」という組織があります。「蔵王協議会」は、県内・外の主要な教育病院で構成され、山形大学医学部附属病院と有機的連携をとりながら、効果的な循環型教育体制を構築しています。また、後期研修を終えてからも医療を続けていくポジションも、この「蔵王協議会」の参加施設には確保されており、研修終了後も十分に力が発揮できます。本院のプログラムについては、山形大学医学部附属病院のホームページから、卒後臨床研修センターのページにお入りいただけますと、各診療科の詳しい情報が掲載されております。

## ●医師紹介・メッセージ

### ●常勤勤務医師紹介(指導医)

診療科名(役職)	氏名	現在の専門分野、学会認定等
第一内科(助教)	井上 純 人	呼吸器内科、日本内科学会(認定内科医)、日本呼吸器学会(専門医)、インフュクションコントロールドクター(ICD)、日本がん治療認定医
第一内科(助教)	二崎 文 司	循環器内科、日本内科学会(認定内科医)、日本循環器学会(循環器専門医)
第一内科(助教)	高崎 聡	腎臓内科、日本内科学会(認定内科医)、日本腎臓学会(専門医)、日本透析学会(専門医)
第二内科(准教授)	齋藤 貴 史	慢性肝炎、日本内科学会(指導医・認定医)、日本消化器病学会(指導医)、日本消化器内視鏡学会(指導医)、日本肝臓学会(指導医)、インフュクションコントロールドクター
第二内科(講師)	齋藤 孝 治	肝硬変・肝不全、日本内科学会(指導医・認定医)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本肝臓学会(専門医)
第二内科(助教)	渡邊 久 剛	肝疾患、日本内科学会(指導医)、認定医)、日本消化器病学会(専門医)、日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本肝臓学会(指導医)
第三内科(准教授)	大 門 眞	糖尿病・代謝内分沁内科、内分沁代謝科専門医、内分沁代謝指導医、糖尿病専門医、糖尿病指導医、臨床遺伝専門医、臨床遺伝指導医、内科認定医
第三内科(講師)	栗田 啓 司	神経内科、神経内科専門医、神経内科認定医、内科専門医、内科認定医
第三内科(講師)	田嶋 克 史	血液内科、血液専門医、感染症専門医、内科認定医、インフュクションコントロールドクター
小児科(准教授)	鈴木 浩	先天性心疾患、日本小児科学会(専門医)、日本小児循環器学会(暫定指導医)
小児科(講師)	佐々木 綾 子	日本周産期・新生児医学会(指導医)、日本小児科学会(専門医)
小児科(助教)	仙道 大	小児血液学、小児腫瘍学、日本小児科学会(専門医)
精神科(助教)	林 博 史	老年期精神障害、精神保健指定医、日本老年精神医学会専門医・指導医、日本精神神経学会専門医・指導医
精神科(助教)	鈴木 昭 仁	精神科薬物治療、感情障害、精神保健指定医、日本臨床精神神経薬理学会専門医・指導医、日本精神神経学会専門医・指導医
精神科(助教)	簡野 宗 明	児童思春期精神医学
皮膚科(教授)	鈴木 民 夫	日本皮膚科学会(専門医)
皮膚科(助教)	紺野 隆 之	日本皮膚科学会(専門医)
放射線診断科(教授)	細矢 貴 亮	日本医学放射線学会(放射線科専門医)
放射線診断科(講師)	本間 次 男	胸部画像診断、日本医学放射線学会(放射線科専門医)
放射線治療科(准教授)	和田 仁	臨床放射線腫瘍学、日本医学放射線学会(放射線科専門医)、日本放射線腫瘍学会(放射線腫瘍学認定医)、日本がん治療認定機構(がん治療認定医)
放射線治療科(助教)	野宮 琢 磨	日本医学放射線学会(放射線科専門医)、日本放射線腫瘍学会(放射線腫瘍学認定医)、日本がん治療認定機構(がん治療認定医)
第一外科(講師)	平井 一 郎	肝胆脾外科、消化管外科、日本外科学会(認定医)、日本消化器外科学会(認定医)、日本消化器病学会(消化器病専門医)
第一外科(講師)	磯部 秀 樹	日本外科学会(専門医・認定医)
第一外科(助教)	水谷 雅 臣	日本外科学会(外科専門医・認定医)
第二外科(講師)	江村 隆 起	新生児外科、小児外科専門医、日本外科学会(専門医)、日本小児外科学会(専門医)
第二外科(助教)	遠藤 誠	呼吸器外科、日本外科学会(専門医)
第二外科(助教)	外山 秀 司	心臓血管外科専門医、日本外科学会(専門医)、日本胸外科学会(認定医)
脳神経外科(講師)	櫻田 香	脳腫瘍、日本脳神経外科学会認定専門医
脳神経外科(助教)	久下 淳 史	日本脳神経外科学会認定専門医
脳神経外科(助教)	竹村 直	日本脳神経外科学会認定専門医
整形外科(助教)	橋本 淳 一	脊髄・骨髄外科、日本整形外科学会(専門医)(脊椎骨髄病医)、日本脊椎骨髄病学会(脊椎骨髄科指導医)
整形外科(助教)	佐野 多 聞	膝関節外科、スポーツ整形外科、日本整形外科学会(専門医)
整形外科(助教)	佐々木 幹	股関節外科、小児股関節、日本整形外科学会(専門医)、日本体育協会スポーツドクター、日本リウマチ学会(専門医)
産科婦人科(准教授)	中 原 健 次	婦人科腫瘍、日本産科婦人科学会専門医、内分沁代謝科専門医、生殖医療指導医、婦人科腫瘍専門医、がん治療認定医、日本東洋医学会認定医
産科婦人科(講師)	高橋 一 広	更年期障害、日本産科婦人科学会専門医
産科婦人科(講師)	高橋 俊 文	女性不妊症、日本産科婦人科学会専門医、生殖医療指導医

診療科名(役職)	氏名	現在の専門分野、学会認定等
眼科(助教)	菅野 誠	緑内障、日本眼科学会専門医
眼科(助教)	菅野 伸 弥	腫瘍・眼瞼、日本眼科学会専門医
眼科(助教)	望月 典 子	網膜硝子体・動脈硬化、日本眼科学会専門医
耳鼻咽喉科(准教授)	小池 修 治	頭頸部悪性腫瘍、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
耳鼻咽喉科(講師)	太田 伸 男	アレルギー性鼻炎、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、日本アレルギー学会専門医
耳鼻咽喉科(講師)	那須 隆	頭部悪性腫瘍、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定医
泌尿器科(講師)	長岡 明	膀胱癌、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医、日本がん治療認定医
泌尿器科(講師)	加藤 智 幸	腎臓癌、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医、日本内視鏡外科学会腹腔鏡手術認定医、日本ES学会腹腔鏡手術認定医、日本がん治療認定医
泌尿器科(助教)	武藤 明 紀	前立腺癌、日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医
麻酔科(講師)	篠崎 克 洋	集中治療麻酔管理、日本麻酔科学会(指導医)、日本救急医学会CLSコースディレクター、日本救急医学会APTECインストラクター
麻酔科(助教)	岡田 真 行	集中治療麻酔管理、日本麻酔科学会(指導医)
麻酔科(助教)	阪澤 和 恵	日本麻酔科学会(専門医)、日本ペインクリニック学会(専門医)
救急部(准教授)	伊 関 憲	臨床中毒学、日本救急医学会(救急科専門医)、日本麻酔科学会(麻酔指導医)、日本集中治療医学会(集中治療専門医)
病理部(准教授)	加藤 哲 子	人体病理学、病理専門医、細胞診専門医

### ●指導医・研修医からのメッセージ

◎准教授(産科婦人科)：中原 健次  
 君は金の卵です。しかし最初からではなく、磨いて金の卵になるのです。そしてその先は---?医学は人を救うための知識、技術、倫理観の3つの原理で動いており、これらを確実に修得していこう。山形大をあの有名なメイヨークリニックのようにと、嘉山医学部長の打ち出される斬新な改革案のもと、皆で協力し実行しています。近年、受け身の研修医が多いと聞きまわりましたがもったいない。飛び込んできて、自ら積極的に研修してみなさい。2年間ですくく多くのことを学べる以上、医師として筋の通った姿勢が身につきます。山形大は指導医の数が豊富であり、十二分にそのお手伝いができます。また、すぐ上の先輩医師や2年間を通して君の担任となる研修センター教官が、親身にアドバイスをしてくれますよ。

◎研修医：清野 学(平成20年度採用)  
 大学病院で研修をするメリットは、多くの先生方の指導を受けることができることだと思います。また、複数科でのカンファレンスも多く、様々な考え・治療方針などを勉強することができます。大学病院には、県内はもちろん県外からも治療困難な症例、希な症例が集まり、本来自分の専門分野に進んだら一生診ることのないような症例も経験することができます。昨年より新病棟での診療が始まり、今年はICUに加えHCU・NICUも完成する予定なので、今まで以上に難しい症例が集まってくるでしょう。また、同期が多いので互いに勉強会を行ったり、疑問・悩みを相談しやすい環境にあると思います。研修医同士、助け合い切磋琢磨しあって充実した研修を送りましょう。

◎研修医：鴻巣 佐智子(平成20年度採用)  
 大学病院での初期研修はどんなイメージですか?  
 非典型的な症例や重症例が多い、やっていると高度すぎるなど、マイナスイメージも聞かれるかもしれませんが、これらはむしろ大学病院の強みであると思います。難しい症例を経験することは、応用の利く知識と思考のトレーニングとなると思います。また、最先端の現場で日々専門分野の医療を学ぶことができ、一流の医師と触れ合うことで世界が大きくなっていきます。当院の研修は伝統もあり、しっかりとした体制が整っています。これは当たり前のことのようにですが、非常に重要なことだと思います。研修がスムーズに進み、責任あるチームの一員として診療に参加している実感があります。私は山形大学病院での初期研修を、自信を持ってお勧めします。